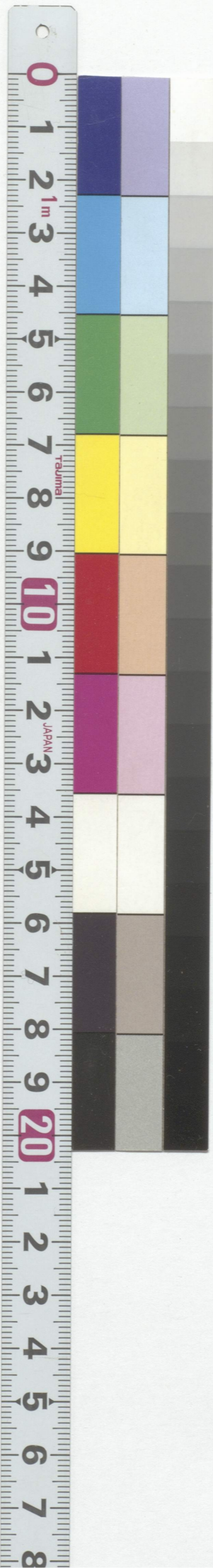
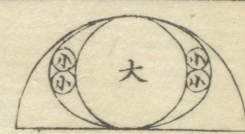


算法側圓詳解

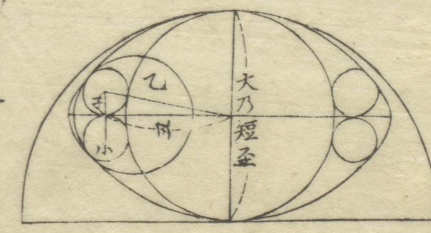
下



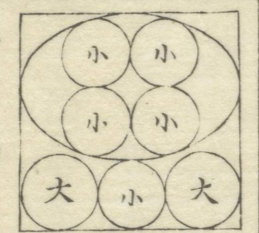


側田の内へ圓の如く大田一個小田四個を容て半田を以て圍む
何れ小田徑五寸一分長徑極に至る其外田徑幾何と問
答曰外田徑五十二寸有奇

第十條の初小仍て 短徑あり 長徑あり 第三十二條 圓
の初三四矩合も仍て二件の矩合を求む 子 三矩合を
丑 乾 坤 三矩合を
變 前矩合を括り
大乙徑の和を省き是を解 定前矩合四矩合を變

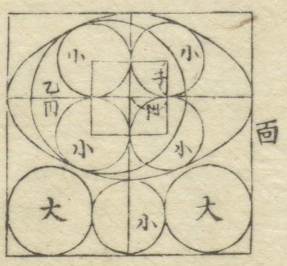


初式末式法の如く維乘して相消
一ニを乗 定矩合外徑を以る式
故に精初左の如
初式 末式
矩合大徑を變
但各實級小
徑を省く



求む 長徑 短徑 子 三矩合を變
方の内へ圓の如く側田及大田二個小田五個を容る何れ方面八寸二分
大田徑幾何と問 答曰大田徑二寸九分有奇

後矩合 前矩合 後矩合 解通く面及乙徑を省き
前矩合四矩合を變 三矩合を變

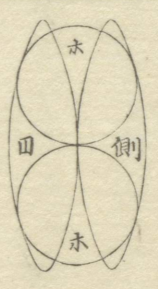


定前矩合 前矩合 後矩合 解通く短徑界を省き

算法則圖洋解

故^{天高} 長径^{天高} あり除^{三ヶ高} 殺と変^{六ヶ七ヶ五重高} 長径^{天高} あり故^{天高} 精^{六ヶ七ヶ五重高} 樹左の如^{天高}

樹曰短径と並等径を^{三ヶ高} 除^{三ヶ高} 是を自^{三ヶ高} して内一個を減^{三ヶ高} 余天と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} 六個七ヶ五重を^{三ヶ高} 除^{三ヶ高} 是^{三ヶ高} 方^{三ヶ高} 又用^{三ヶ高} 天及短径等径を^{三ヶ高} 乘^{三ヶ高} 是^{三ヶ高} 方^{三ヶ高} 又用^{三ヶ高} 天長径と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} て同^{三ヶ高} 合^{三ヶ高} 也



答曰左樹の如^{三ヶ高}

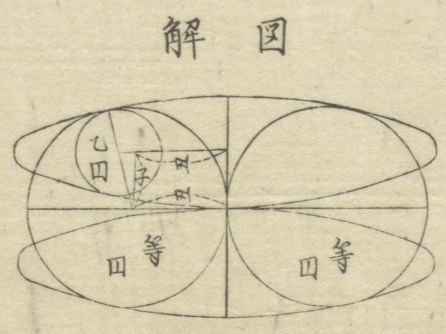
等側圓の内^{三ヶ高} 又圓の如^{三ヶ高} く二等圓を^{三ヶ高} 容^{三ヶ高} る 長径若干短径若干等圓径幾何と^{三ヶ高} 同

第三十一條の樹五六矩合^{三ヶ高} 又仍^{三ヶ高} て二件の矩合と^{三ヶ高} 求^{三ヶ高} む 子^{三ヶ高} 昇

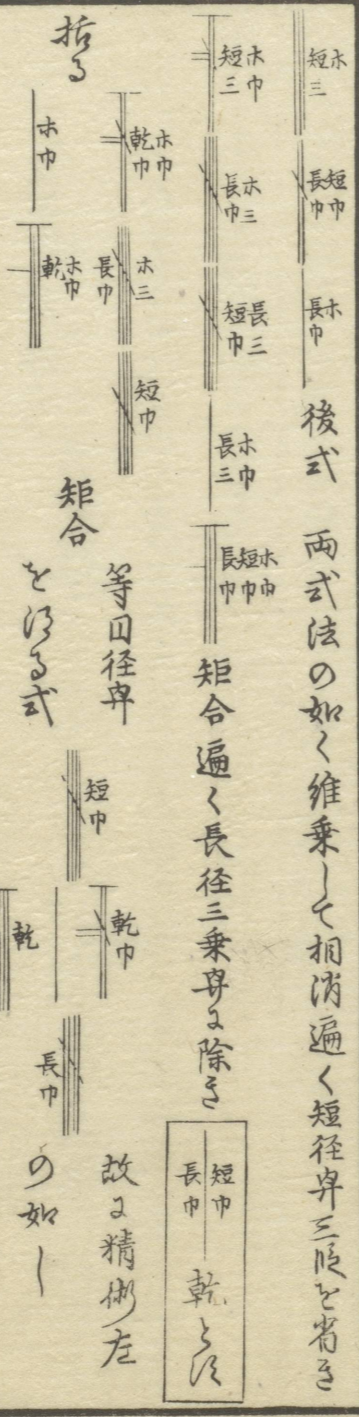
丑^{三ヶ高} 穿五矩合と^{三ヶ高} 變^{三ヶ高} 一^{三ヶ高} 遍^{三ヶ高} く等径及長径^{三ヶ高} 昇と^{三ヶ高} 省^{三ヶ高} 也

前^{三ヶ高} 矩合六矩合と^{三ヶ高} 變^{三ヶ高} 一^{三ヶ高} 遍^{三ヶ高} く等径と^{三ヶ高} 省^{三ヶ高} 也

後^{三ヶ高} 矩合前後矩合^{三ヶ高} 又仍^{三ヶ高} て乙^{三ヶ高} 徑と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} てる^{三ヶ高} 式と^{三ヶ高} 求^{三ヶ高} む 前^{三ヶ高} 式



解 図

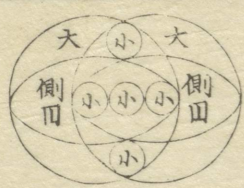


樹曰短径と並長径を^{三ヶ高} 除^{三ヶ高} 是を自^{三ヶ高} して乾^{三ヶ高} と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} 二十七個と^{三ヶ高} 乘^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} て二十八個と^{三ヶ高} 減^{三ヶ高} 余^{三ヶ高} 乾と^{三ヶ高} 乘^{三ヶ高} 一^{三ヶ高} 個と^{三ヶ高} 加^{三ヶ高} 八^{三ヶ高} 除^{三ヶ高} 一^{三ヶ高} 坤^{三ヶ高} と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} 是を自^{三ヶ高} して内乾を^{三ヶ高} 減^{三ヶ高} 余^{三ヶ高} 是^{三ヶ高} 方^{三ヶ高} 又用^{三ヶ高} 天長径と^{三ヶ高} 以^{三ヶ高} て同^{三ヶ高} 合^{三ヶ高} 也

大圓二個交錯^{三ヶ高} して内^{三ヶ高} 又圓の如^{三ヶ高} く側圓二個及小圓五個を^{三ヶ高} 容^{三ヶ高} る^{三ヶ高} あり

大圓径五十九寸極小圓径幾何と^{三ヶ高} 同

答曰小圓径一十四寸有^{三ヶ高} 奇



第三十條三四矩合^{三ヶ高} 又仍^{三ヶ高} て二件の矩合と^{三ヶ高} 求^{三ヶ高} む 大^{三ヶ高} 二^{三ヶ高} 小^{三ヶ高} 丑^{三ヶ高} 子^{三ヶ高} 昇

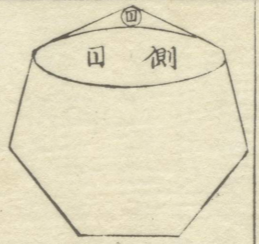
短中 外中 天中 平中 長中

丑 穿平方よりいふに
 辰 是と解
 辰 縮外短差 短半辰差
 矩合是と解通く
 寅 角率
 寅 長短
 卯

例	比
短半辰差	辰 子
縮外短差	卯 丑

外徑より圓の短徑及平中徑率二倍と省短角中徑率より除き
 矩合故より
 乙徑あり仍て精測左の如し

樹曰 別より例田個数を角数より
 角中徑率と倍倍して極より長徑と倍短徑より除き是
 と角より内一個を減し余極を加へ平方よりいふに短徑と乗し長徑を加へ内外
 徑を減し余極より除き乙徑をいふに合を



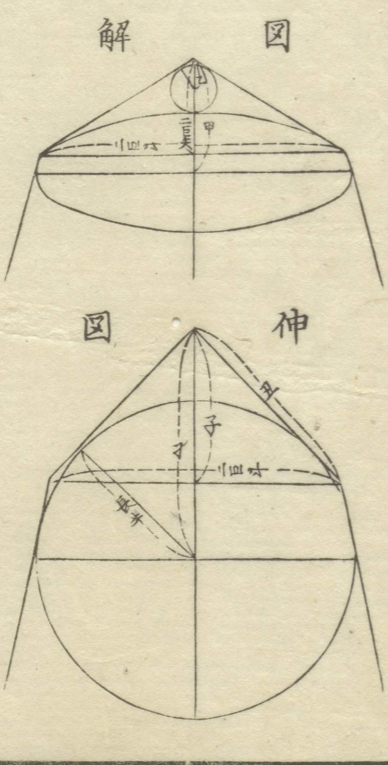
若干角 後より七角
 の内より圓の如く側口及口と容る
 乃例田周ハ 四面より切以 何より長
 徑若干短徑若干口徑をいふに樹如何と同
 答曰左樹の如し

二距矢 二距斜 子 丑 穿こをを解く

長中 平中 短中 角率 天中 短中 角率 丑 穿

天中 短中 角率 天中 短中 角率 丑 穿

是と極る 丑 比例より
 仍て 寛あり



短徑と乗し長徑より除き解
 乙左よりいふに相消通く平中徑率二倍と乗し甲と解
 甲あり 乙左よりいふに

精矩合 口徑をいふ式
 故より精測左の如し

樹曰 別より角数より随て其角中
 徑率及平中徑率と求む 短徑と倍平中徑率と乗し定より長徑と倍半より
 是と角より定界を加へ平方よりいふに内定を減し余角中徑率平中徑率の
 和より除き口徑をいふに合を

省大斜二段

卯短丁中

丙甲中

短甲大丙中差

沆矩合

小

卯

為戊

大中差

甲

寄位自之加沆矩合四段

丙

丁大

也

也

短中

卯短丁中

變之

卯短中

卯丁短中

丁短中

開平

大中差

卯

丁

也

方與寄位相消

卯短

丁短

大中差

變之二約之而

甲

卯短

也

也

第五矩合故

甲

卯短

也

第五矩合解甲

卯短

也

也

亦解之變之

中丙

丁短

矩合依之

中丙

丁短

也

第三矩合乘丙界

中長乙丙中

卯短乙丙中

甲大小丙中

變之省大斜界四段乘

也

也

也

丙

中長丁丙中

卯短丁丙中

卯短小丙中

變

父玄和

白

也為東

父中

辰玄

也

之括之省丁小斜和

父中

父玄差

也

父中

卯

大斜也

為戊

也

也

也

也

也

也

也

也

及短徑

中長丁中

卯短丙小差

解之

中長父玄差

再

東短卯玄中再

東

卯

小斜也

卯東短玄再

中長丁中

卯短丙小差

卯短丙小差

解之

中長父玄差

再

東短卯玄中再

東

卯

小斜也

六短合

卯中

中中

小中

矩合解之

東玄中

東卯玄中

東

卯

小斜也

第七矩合

第五矩合解之

東中玄

卯中玄

中父中

東短玄中

第八矩合

第九矩合

解之

寄位自之與

為西

為已

第九矩合

寄位自之與

解之

為南

為天界

為南

短徑因九矩合相減

括之

為南

為天界

為南

開平方與寄位相消

為南

為天界

為南

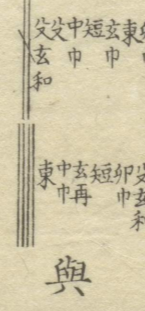
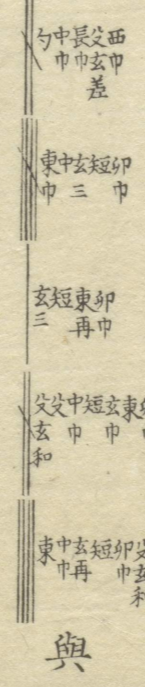
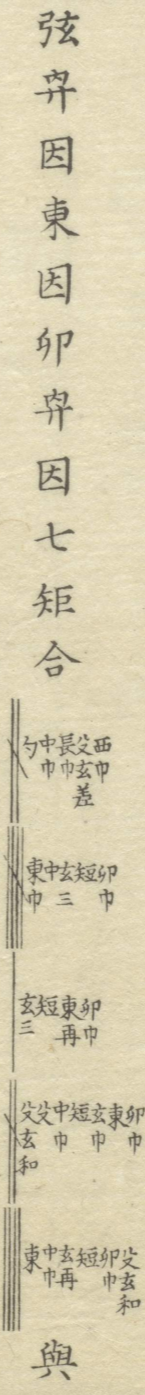
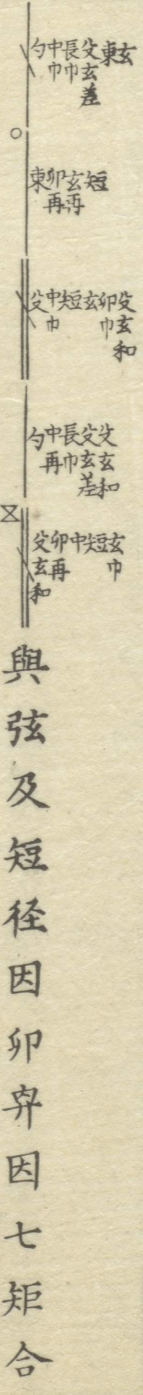
括之
 解之
 矩合依之
 中斜也
 乘西得數與弦

弁及短徑因卯再乘弁因七矩合相減

括之省股弦差及中斜
 與弦及短徑因卯弁因七矩合

相減括之
 乘西二段得數加短徑及

弦弁因東因卯弁因七矩合
 與



東因弦弁因卯弁因九矩合相減省中斜及股弦差二段

與勾
 解中斜變西省東弁及弦弁括

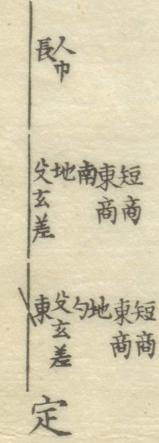
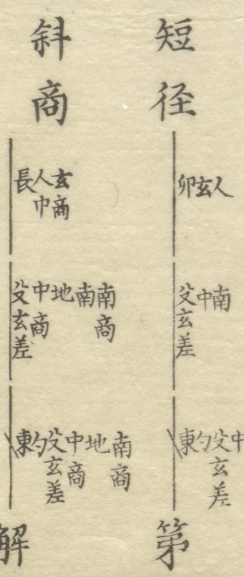
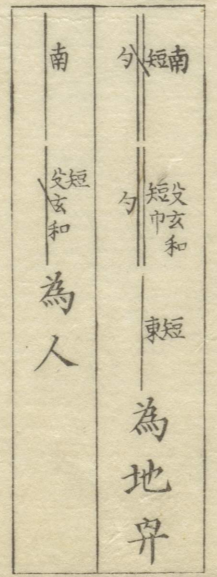
之左右分之
 左
 右各開
 為地弁

平方相消
 第十矩合
 為人

解之括之省東及弦與短徑
 第

十一矩合
 解之省中斜商
 解

中斜商省弦商
 定矩合



寄左 總積弁相消 第三矩合 二

三矩合相併 第四矩合 括之省斜弁 解之省

勾及股二段 第五矩合

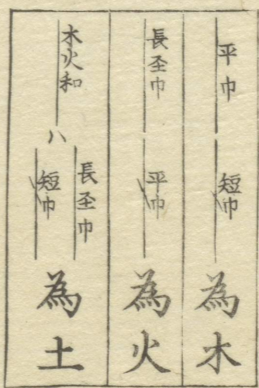
三矩合解斜弁 括之 為水

第六矩合故 也 六 括之 為火

矩合補之 括之 故 者 變

也 五矩合括之乘木

也 變



之 省土及平弁括之 第七矩合

東 戊解之

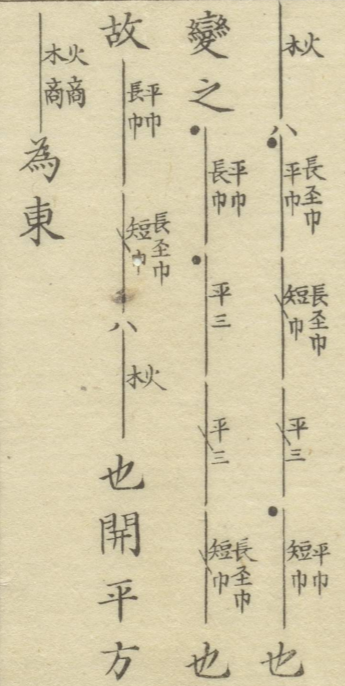
西 戊解之

亥 亥解之

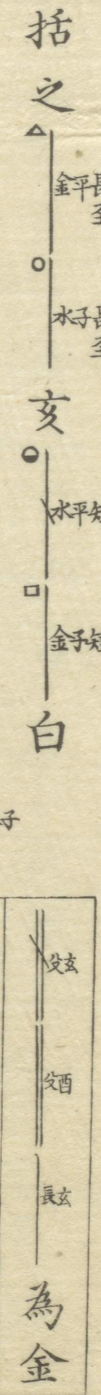
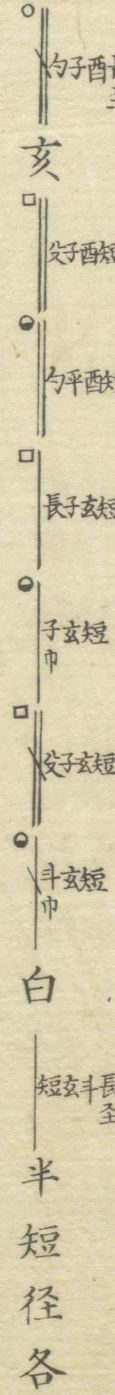
青 青解之

黃 赤乘短徑以長徑除之解之

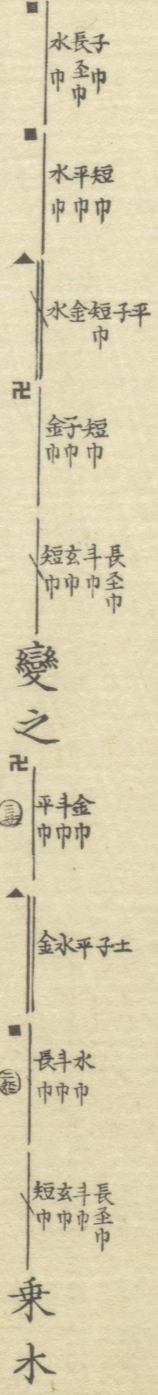
白 於是置亥及白與半短徑各乘



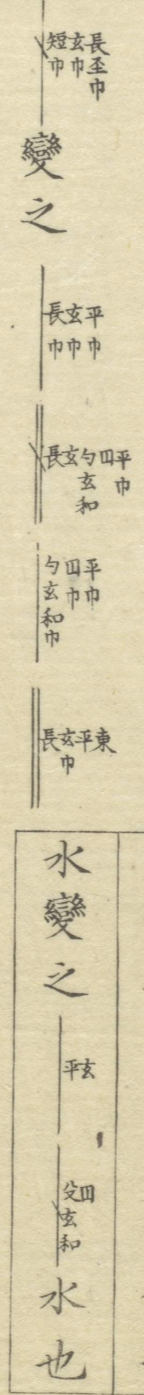
斜及弦與長徑二段亦如舊命之



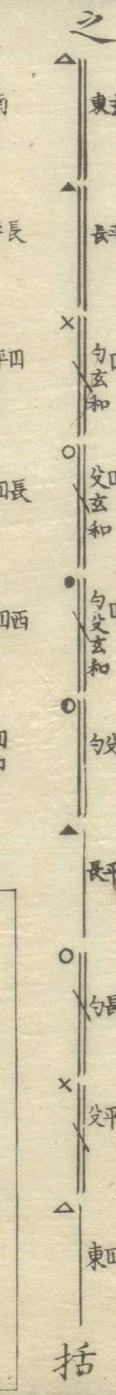
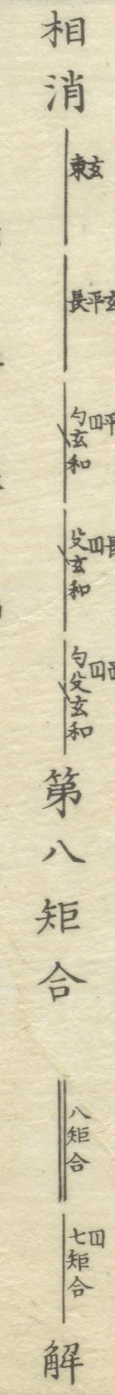
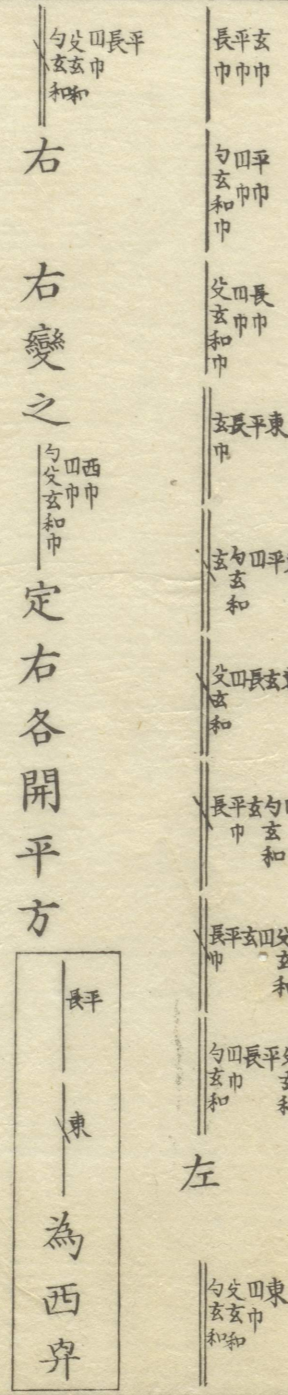
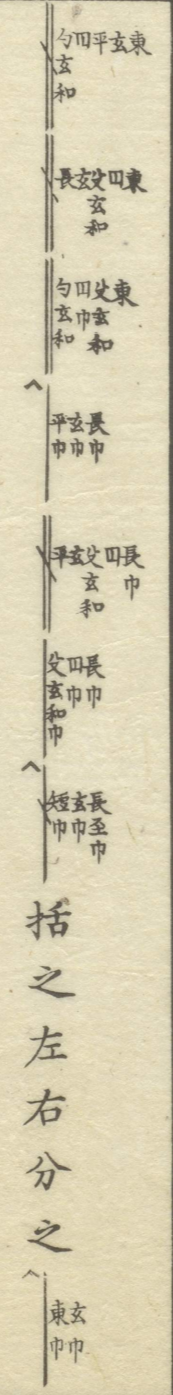
矩合解之



變之省土及平弁

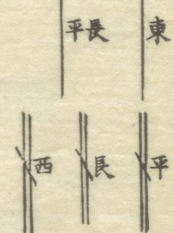


水變之 平玄 父玄和 水也
金變之 長玄 父玄和 金也



算術

得圓徑式



依此式精術如左

術曰置長乘平名天置長自之加平冪并減短徑冪餘乘短
 徑冪以減天冪餘開平方名地以減天餘開平方西加長及平
 人自之并減天及地餘開平方以減人餘得圓徑合問

附錄 終

北林堂藏板目次

江戸中橋廣小路町

西宮彌兵衛

算法新書

總理 西碯先生
編集 流峯先生

全五卷 合卷大冊一卷

此書は法数の名義より八算見一お場割るる分盈朧お後開平方用急方勾股
 法宮術天元地竈文高変者整數逆索減數互減通約互約逆約互約自約
 増約損約零約刻一箇一節管通る変數括弧架術綴術圓徑角術及難題示
 きて術毎一記系をゆり巻末小極形術を附録し巻中未案の形術數條を考け
 右人の解し難き或解し難て算術中の秘を詳載し一方の算士に於て固く
 術法を索むるに用の子を費はさなく解法捷徑ありて精術を以給ふべし

算法極形指南

西碯先生創製
鳳堂先生編集

全五卷

極形術法則より記し一個の極形変化を其の條件の象を成し一種の極組合還系にて
 不同の組合件を以て示し詳書の難同二百餘條の記系を詳載し其法の
 術法を以て速く精術を施する者未案の窮理解法捷徑の良法なり

載反目錄

周遊算艸

山口先生編

全三卷

先生文化丙子の春江都を發し文政辛巳の冬に至て六年の春秋四方に遊歴し普く天下の算士に遇て問答せし奇題妙術を集成しけ書と題するを以て旅行の勞あつて千里同好の士と友まし諸家の學風を初を拾ふべし

匠家矩術要解

平内先生編

折本一帖

往古より矩術の書刻數本ありといへども其の真理を述ぶるを見れば今數理を推して解義をかゝ真の矩術を施し初學木匠の二助といへ書僅々帖子といへども墨繩矩術の定則を尽せり

點竄手引艸

小樽先生 同編

全十五卷

初編 二編 三編 四編 五編 每編各三卷

點竄術の教學最大一の良法方法の根原あり初學通曉し難し今平假字を用て初學通曉し難し今平假字を用て初學通曉し難し今平假字を用て初學通曉し難し

算法地方指南

朽木軒先生編

全一卷

田畑及利倉石盛物成豐凶採見しは格より此方算法の問答を載せ詳義を詳述古今粗税の異同を論し國郡の廣狹を採り出谷の寸法を示し書に於て地方町見分見の術より居るべき所を採りて後分るべき所を採りて實に其教を授るの妙術なりといふべし

社盟算譜

鄰々白石先生編 旭岡池田先生訂

全二卷

世に圓理強背真術と唱ふる僅に圓法強術より過き書中に載する所を以て此類の術は楕圓圓背の算術を初めこれ二階を以てする圓形球數の求積と楕圓木の妙算奇術を撰び社中より廟堂に掲げしを集り附録六球面二斜後尖の各算表を以て其法算書の後を以て卷末に不朽算法の因能中奇あるをのそ抄てこの書に於て其法算術奥ふること

溫知算叢

鄰々白石先生閱 陶々木村先生著

全一卷

鄰々先生の傳より陶々先生自得し其の圓珠の求積と楕圓木の奇算妙術を集録するあり

歲反目錄

算法雜俎

鄰々白石先生閱
湛々岩井先生著

全一卷

鄰々先生の傳も其域に於る軍自ら其の形を奪へ廟堂に納むるを集めず湛々先生自らの
奇例と本内小泉西之の妙術と外回盟の形術を加へは漸々其の奇術の管の管の漸々先生の法算者
及正例の後編と異之妙てけを階梯としてその上り下りすこやれば教者を極めざる處

數理無盡藏

鄰々白石先生閱
旭岡池田先生著

全一卷

鄰々先生の自得の方圓錐體の法表を是はいつる圓球の難難社盟算譜のこれをも
表を用ゆる時其解をて簡あつたといふ形は階梯としての定法を用ゆることには外法算書の形原も
階へは後編を撰せしむる韓録也○二箇より九九箇との商教する三角より百角までの角中至
平中至二距斜率圓周率圓積率棟積率木の真教と多位の○教を用字畧盡法物貯を
大教小教量度の名目を具ふ○書望方望九固望主望より十乘望まで○町見は線
畧表を世遠近を量るハ勿論回檢地はなるまで之法具く小冊といふも町見の意は是なり

算法點竄初學抄

池田先生監定
橋本先生著

全一卷

世は點竄の書之ハ初學抄と名をとり初學抄軍九やましくとては其のりかたはありけり
ふるくの算士のころころしき術文を記憶するに及びハ算見一をたよる時師をて點竄及
比例の程を自得し何れにのみても自生よありぬれ意をたよる蓋人家公私日用のり多しといふも
際この一冊子よ止まらざるを以ては其の意をたよる蓋人家公私日用のり多しといふも
右今捷徑の書もよはざるその速算法は入らんとせざるそのはけをいふすはありける

天保五年甲午正月

大坂心齋橋筋博勞町

河内屋茂兵衛

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同日本橋通一町目

須原屋茂兵衛

同神田鍛冶町二丁目

北 嶋順四郎

同日本橋通二町目

山城屋佐兵衛

同中橋廣小路町

西 宮弥兵衛

書肆

算法雜俎

鄰々白石先生閱
湛々岩井先生著

全一卷

鄰々先生の傳を抄り其域に於て算術自ら著の術を牽一髮堂に納むるを集りて湛々先生自得の
奇術と本内小泉西之の妙術とを併同盟の影射を加へて湖々先生の算術の術を湛々先生の法算書
及び術の後編と異之抄りて去を階梯としてそまふればすこやかに教書を極むるなる也

數理無盡藏

鄰々白石先生閱
旭岡池田先生著

全一卷

鄰々先生の自得の方圓器術の法表を是はいつる圓球の難難社盟算術のこれをも
表を用ゆる時其解を簡あつたは形は降とてその定法を用ゆることと外法算書の術原よ
涉るる經合を洩せりて韓録と〇二箇より九箇との商數と三角より百角までの角中至
平中至二距斜率圓周率圓積率球積率の真數と多位の〇數を用字畧盡法物貯
大數小數量及の名目をも具ふ也〇晝空方盤九圓切主切より十乘切まで〇町見ハ線
畧表を世遠近を學ぶハ勿論回檢地にもあるをそは法具ハ小冊といふも町見の意ハそせり

算法點竄初學抄

池田先生 監定
橋本先生 著

全一卷

世は點竄の書之ハ久しく聞えりて初學此輩たやとて此を記すものもあつたは
あつたの算書のときもさうしき術文を記憶するに及ばず算見一をだよ初時師を以て點竄及
比例の程を自得し何れのもも自立しあはるる意を以て蓋人家公私日用の多きとて
際この冊子よ止まらざるは成るもあつたは蓋は蓋の法に於ては蓋の階梯ありて
古今捷徑の書もよはさるるの速に算法よ入らんと破るるものハけにすんあつたは

天保五年甲午正月

天保五年甲午正月

